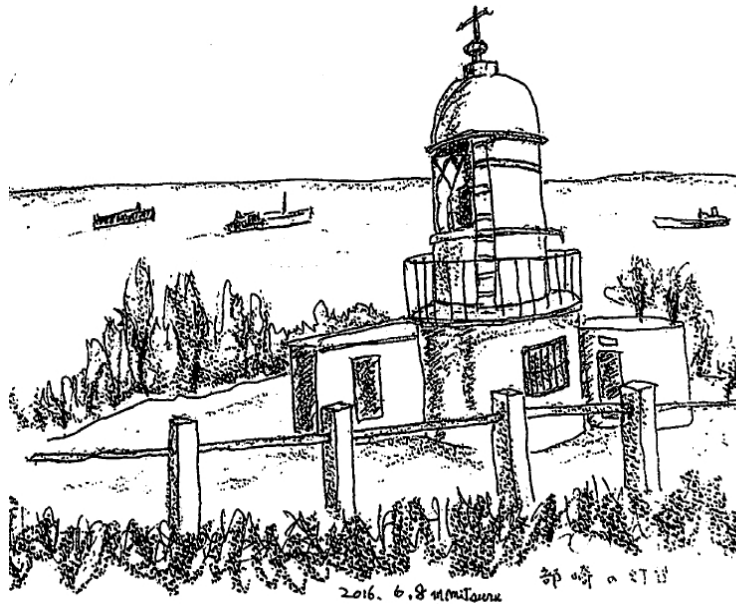


週報2020年4月19日



2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙3章15節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



2020年4月19(日) 聖日礼拝

説教箇所

エペソ人への手紙1章13～14節

説教題

「聖霊による保証」

賛美

「感謝と喜びを」

エペソ

1:13 この方にあつてあなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことにより、約束の聖霊をもって証印を押されました。1:14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。

**交わりの三省**

- \*互いに愛し合っていますか
- \*互いに赦し合っていますか
- \*互いに祈りあっていますか

# 説教要約

## エペソ人への手紙1章13～14節

### 「聖霊による保証」

#### I 導入

前回「人は心の中心にイエス様を失うと、元の肉の性質に引っ張られ、神の御心に反した行動を取る」という事を書かせていただきました。このテーマは前回の聖書箇所よりも、今回の聖書箇所にあてはまります。(パウロ書簡でたびたび取り扱われるテーマ)。しかしそれだけではパウロがエペソの手紙で取り扱っているテーマを語るには不十分です。パウロがここで伝えたいことは「私達の内にキリストが中心にあるならば、神の御心に反する事は無い」という事です。**エペ5:8 あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。**と語っている通りです。

つまり、今回の聖書箇所を通じて、パウロがエペソの人々に投げかけている事は「何があなたの人生を保証してくれるのか？」という事です。答えは今日お読みした通り「聖霊による保証」です。パウロはこの言及によって、神の一方的な恵みをエペソの人々に思い起こさせようとしています。人がイエス様を信じた時、聖霊様が「あなたは救われました」という大きなハンコを心のど真ん中に押してくださいます。この保証は一生涯消えるものではありません。この印(十字架)によって人々は神のものとされたこと、そして、そのために尊い御子の代価が払われたことが示されるのです。先ほども申しましたがこれは神の一方的な恵みです。パウロはこの恵みが人生の中心ならば、偽教師の聖書に反した教えに振り回されることなく、以前没頭していた魔術の力にも頼らないで済む、という事を教えたかったのです。私達が今日、この聖書の言葉を通じて投げかけられている事は「あなたの人生を保証するものは何ですか？」という事です。答えは聖霊によって示された、神の一方的な恵みです。

#### II 本論(証)

たまたま見ていたテレビに非常に心打たれ、感動しました。その内容は、ある大阪で大活躍しているベテラン芸人さんが、東京で頑張っている後輩芸人達の所へ行き、ご飯を食べさせてもらうというものでした。

大阪の芸人さんは東京に進出する時、今までの培った地位や名声そして仕事を全部捨てて、もう一度0からスタートしなければなりません。そんなかつての自分が歩んだ道を歩く弟子達に師匠としてエールを送る、それが東京に行く本当の理由だったのです。

彼らは突然の師匠の訪問にびっくりし、何も用意出来ないと困惑気味でした。ある後輩芸人は仕事が忙しいので、今会えないと冷たい対応でした。しかしこれは嘘で、後輩芸人達は、師匠の為に食事会を計画し、師匠の訪問を心から歓迎したのでした。とほとほと大阪に帰る寸前のお師匠様は弟子達のサプライズに驚き、涙しました。

弟子達は今まで育ててくれた感謝を忘れていなかったのです。今東京で頑張っているのは、大阪でお師匠様がお世話して下さったから、彼らは次々と感謝の言葉を述べました。この番組のクライマックス、師匠はその食事会の中で最後に言いました。「私にとって弟子は子供同然、子供が困った時助けるのは当たり前だ。これからもがんばりや、君らは大丈夫や東京でもやっつけける」時が変わり、仕事の内容が変わり、成長していても、変わらない師匠と弟子の関係性、その美しい師弟愛に私は感動しました。

#### III 結び

今日の冒頭の質問を言い換えると、「私達は人生の安定を何によって図るのか？」という事です。今回新型コロナウイルスの影響で私達の「当たり前」は幾つか奪われる形になりました。「当たり前に仕事する」「当たり前に出外し、家族や知人に会う」「そして当たり前で会堂で礼拝する」すると私達は経済の面、健康の面、総じて将来が不安になります。先行きが見えないからです。しかしハッキリと言えることが一つだけあります。どのような時も私と神様との関係性は変わることが無い。

聖霊がこの事をはっきりと告げて下さるのです。イエス様を信じた時から私達は聖霊によって永遠なる神の愛が示され、イエスキリストによってもたらされた贖いによる救いが人生の中心に据えられるのです。これは恵みです。今私達に求められているのは主への信頼です。いつも愛し支えてくださる事への感謝を述べ、主を褒めたたえる。つまり祈りと賛美を忘れないということです。そのような生活は周囲に必ず良い影響を与えます。主を中心とした笑顔や平和、隣人への尊敬が伝わっていくのです。これが、パウロが今も変わらず成熟したキリスト者に願っている事です。共に主を見上げ前進してまいりましょう。